

旧池田氏庭園 秋季特別公開 11/6 土・7 日

受け付け時間 / 午前9時から午後3時30分まで

公開整備協力金 / 1人200円(中学生以下無料)

【問い合わせ】平日 / 文化財保護課 ☎0187-63-8972

土日祝 / 仙北総合支所 ☎0187-63-3003



東北三大地主として知られた池田家は、耕地整理、河川治水工事、無料診療所開設、学校給食、学校建設への寄付、小作人信用購買組合など、社会資本の整備、社会福祉の向上、青少年教育に尽力。地域と共に住みやすい理想郷づくりを目指した。その根底には地域への愛、地域と共に歩む姿がある。現在に生きる私たち、先人の功績に誇りを抱き、継承しよう。この地域の後継者としての自覚と責任を持ち、これからのまちづくりに取り組もう。池田家の歴史には、学ぶべきことがたくさんある。

「地域共栄」
旧池田氏庭園は
池田家の精神が
はぐくまれた舞台
その扉がまもなく開く

特別公開開催と解説案内、普及啓発グッズの製作販売等の活動
を続ける池田家顕彰会会員と協力員。(前列中央・ご当主夫妻)



使命感を持ち活動する顕彰会

庭園見学者の解説案内を務めるのは、「池田家顕彰会」(伊藤稔会長・会員12人)の会員。得意の名調子が見学者の知的好奇心をくすぐる。同会は、旧池田氏庭園の保存整備、活用の支援を行う団体として、平成16年10月に設立された。毎年開催される春と秋の特別公開はそれぞれ2日間。昨年からは大曲の花火の翌日も追加された。期間中は、県内外からたくさん見学者。昨春秋で約6300人、今年春で約2100人が訪れ、入園を待つ行列ができるほどだ。

見学は30人程度のグループに分かれ、1周約700mを約40分かけて回る。案内が終わると次のグループといった具合で、解説案内を務める会員は休憩も取れない状況。肉体的にはつらいが、輝きに満ち、生き生きとした姿を見せる。会員の佐々木忠雄さんは解説案内の最後に「在村地主として地域の人々を助け、安心して暮らせる地域づくりに取り組んだ池田家。その姿があらゆるところに見え、脈々と流れる」と必ず締めくくると。その言葉には池田家を顕彰し、「地域共栄」という池田家の精神を伝えるという責任感が存在する。

池田家の功績を顕彰し、後世に伝える
以心伝心
名勝庭園とともに池田家の精神
を未来に継承し伝える。

PICK UP

真山公園の一部、紅葉の名所旧池田氏庭園の払田分家庭園は常時見学可能



真山丘陵を借景とした払田分家庭園。

真山公園の一部として一般公開されている旧池田氏庭園の「払田分家庭園」。

池田家本家13代池田文太郎の弟である池田禮治が、明治41(1908)年に高梨村払田、真山の小高い丘のふもとに分家した際造られた。こちらも長岡安平の設計による庭園。

秋には一面の紅葉を楽しむことができ、多くの写真愛好家が訪れる、隠れた紅葉の名所となっている。

INTERVIEW

「地域拠点として活用してほしい」16代当主・池田泰久氏



池田家を継承するにあたり、先祖の意思をしっかり受け止め、次代へ引き継ぐことが役目と考えた池田泰久さん。敷地、庭園、建造物を市に寄贈することに、継承者としてのためらいがあったという。しかし、個人での管理には限界があり、公有化することで、末永く継承し保存ができると英断をくださった。

地域住民と共にまちづくりに取り組んできた池田家。「その精神が継承され、庭園が重要な地域拠点として活用されれば、喜ばしい」と話す。



解説案内する顕彰会の会員